

## 【反対討論】

市議案第82号令和3年度豊中市一般会計補正予算第10号の修正案に賛成の立場で討論します。つまり、原案の高齢者インフルエンザ定期予防接種の無料化の部分に反対の立場で討論します。この事業は、昨年度に引き続き、今年度も65歳以上の高齢者が自己負担なく全額公費負担で、インフルエンザの予防接種を受けられるようにするもので、多くの高齢者にインフルエンザの重症化を予防して頂き、医療機関のひっ迫を防ぎ、コロナ患者の受入れへの影響を軽減することが目的となっています。しかし、昨年度、同じ事業が実施されましたが、その事業効果の検証は全く行われていません。その上で、市は答弁の中で、インフルエンザの予防接種の接種率の向上と感染者数の減少に因果関係があることを示すデータは無いこと、インフルエンザ予防接種は、感染を抑えるのではなく、発病や重症化を抑えるものであることを明言されました。昨年度は、そもそもインフルエンザの感染者数がほぼゼロだった訳で、感染しなければ、発病も重症化も当然しないことから、昨年度、65歳以上の高齢者のインフルエンザ定期予防接種を無料化し、接種率を高めたことによる効果は無かったと言えるのではないのでしょうか。昨年度、多くの人が高齢者のインフルエンザの予防接種を受けたことも事実といった答弁もありました。しかし、今回の補正予算案の審議に重要な点は、接種率がどれだけ上がったかではなく、接種率の向上が、重症化の軽減にどれだけ繋がったのかということだと思いますが、そういったデータは一切示されておりません。市として、昨年度実施した65歳以上の高齢者を対象としたインフルエンザ予防接種の無料化が、その目的である高齢者のインフルエンザの重症化の予防にどれほど寄与したか、具体的な数値やエビデンスで示すことが出来ない中で、今年度も約1億5900万円もの税金を投入して、無料化をすることに、どうして賛成できるのでしょうか。むしろ、賛成したとして、どのように納税者市民の方々に説明をすればよいのでしょうか。そもそも、65歳以上の高齢者については、現行でも一部公費助成が行われており自己負担が他の世代よりもかなり安い1500円で接種が可能となっています。そのために、市は約2億1500万円もの財政負担をしており、既に、高齢者の方々にインセンティブを与える形になっています。昨年同時期は、新型コロナワクチンはなく、一方で例年の状況からインフルエンザによる高齢者の重症化リスクやそれに伴う医療機関のひっ迫の懸念が少なからずあり、65歳以上の高齢者へのインフルエンザ予防接種の無料化は、一定、理解ができました。しかし、昨年度、インフルエンザの罹患者数が激減し、重症者がほぼゼロだったことに加え、現在は、各医療機関で新型コロナのワクチン接種が行われており、若い世代を中心に未だに未接種の方、予約すら取れない方が多数おられる状況です。65歳以上の高齢者の方々は、新型コロナワクチンで優先的に接種が行われ、希望する方は既に2回の接種が完了していますが、その上、インフルエンザ予防接種を無料化すると、新型コロナウイルスのワクチン接種を未だに予約すら取れていない若い世代の方々やワクチンの接種対象外である12歳未満のお子さんをお持ちの子育て世代の方々に世代間の不公平感が生じるのではないかと危惧します。

「昨年度はインフルエンザの発生がほぼありませんでしたので、高齢者が重症化したとは考えられませんが、今年度のインフルエンザの発生状況は不明です。現在、新型コロナウイルスがデルタ株の猛威で、医療機関が非常にひっ迫している状況にあります。この事業を実施することで、例年より多くの高齢者がインフルエンザの予防接種を受けて

いただけると考え、高齢者の重症化を防ぎ、医療機関のひっ迫を少しでも抑えることは、重要なことと考えています。」との答弁がありました。発生状況が不明なインフルエンザの予防接種の接種率よりも、既に猛威を振るい、しかも感染力が季節性インフルエンザよりも強力な新型コロナウイルスのワクチンの接種率を高める方が、医療機関のひっ迫をより抑えられることは明白ではないでしょうか。また、今年インフルエンザの発生状況が不明なこと、今後、若年層が新型コロナウイルスに感染し、重症化する可能性が不明なことは同じではないでしょうか。そうであれば、既に約2億1500万円もの財政負担をして、インセンティブを与えている65歳以上の高齢者へのインフルエンザの予防接種に、今年発生状況が不明な中でも更に約1億5900万円もの財政負担をして、接種率の向上を目指すくらいなら、今後、感染リスクや重症化リスクが高まる可能性が不明な新型コロナウイルスのワクチン接種の接種率が高齢世代と比較して低くなることが想定されている若年層に対して、また、ワクチンの接種が出来ない12歳未満のお子さんと同居している可能性が高い子育て世代に対して、何らかのインセンティブを付与して、接種率の向上を目指した方が良いのではないかとさえ思います。今、市民が望んでいることは、65歳以上の高齢者のインフルエンザ予防接種の接種率を高めることよりも、社会全体として、新型コロナワクチンの接種率を高め、集団免疫を獲得することであり、そのことを優先した予算措置、事業の実施が求められているのではないのでしょうか。

以上の点で、現時点において、高齢者インフルエンザ定期予防接種の無料化は、費用対効果の高い、優先順位の高い事業であるとは思えず、昨年度の事業効果を十分に検証した上で、予算計上すべきとの見解から、市議案第82号令和3年度豊中市一般会計補正予算第10号の修正案に賛成であること、また、修正案が否決された場合は、その他の補正予算案には賛成のため原案に賛成することを表明し、討論とします。